

❖ 従来品と開発品との比較

	従来品	開発品
外袋	塩ビ ポリウレタン	ポリウレタン (抗菌配合)
内袋	なし	あり
充填物	中粒子ビーズ・小粒子ビーズ	小粒子ビーズ (保持力大)
作業性	準備に時間がかかる 作業者の技量が必要	すぐに使える 誰にでも扱いやすい
使用感	「底突き」など不快感	「底突き」の解消
帯電圧減衰時間	長い	短い
帯電性	高い	低い
耐久性	ビーズの劣化 (縮小) で形状保持力低下	ビーズの劣化 (縮小) を大幅軽減
製造	海外・日本	日本

❖ 規格品サイズについて

品名	サイズ	側地	ビーズ
全身用L185	L 185cm × W 70cm	ボーダー	小粒子
全身用L160	L 160cm × W 70cm	ボーダー	小粒子
半身用L90	L 90cm × W 70cm	ボーダー	小粒子
下肢用L80	L 80cm × W 50cm	ボーダー	小粒子
上肢用L45	L 45cm × W 33cm	ボーダー	小粒子

※キルティング (側地)、大粒子 (ビーズ) については特注にて対応。

製造元

NCI 日本ケミカル工業株式会社
 NIHON CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
 〒512-0911 三重県四日市市生桑町 336-1
 TEL : 059-331-1161
<http://www.nihonkemi.co.jp>

販売店・取扱店

株式会社 三洋
 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町 1-13-14
 TEL : 03-3663-6081 FAX : 03-3667-0577
<http://www.sanyo-ltd.com>

全身画像診断・放射線治療用 陰圧式 体位固定具



「重袋採用」
 で
 ビーズの飛散・底突き
 偏りを解決

- 抜群の形状保持力
- 底突きによる苦痛を解消
- ビーズのならし作業不要
- ビーズ劣化 (縮小) 大幅軽減

❖ 従来品マットの問題点

シートに直接ビーズを充填する従来の方法では、中でビーズが飛散してしまうため、使用する前に偏ったビーズを均等にならす作業が必要でした。



【飛散】



【偏り】



【底突き】

【従来のマットの断面】



ビーズが流動してしまう問題点があった。

さらに従来のマットは荷重によりビーズが流動してしまい、底突きが発生し患者を苦しめていました。

❖ 開発品マットの改良点

外袋シートにビーズを挿入した内袋クッションを封入する『**重袋構造**』を採用することで、**ビーズの流動を解消**。

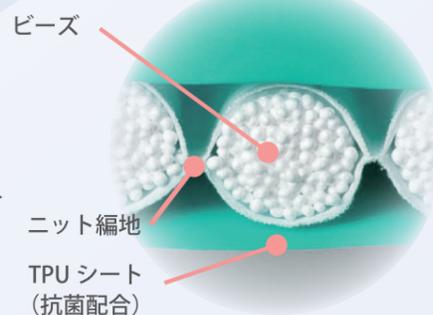
【開発品のマットの断面】



【内袋の構造】

内袋は袋状のニット編地にビーズを充填したクッション。飛散・偏り・底突きを発生させません。それにより、従事者のビーズならし作業が不要となりました。

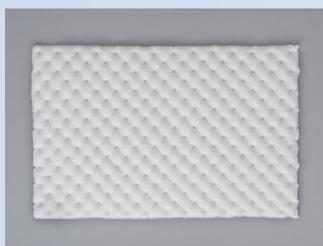
【断面図詳細】



【開発品のマットの内部】



【キルティング編地】



【パイプ（ボーダー）状の編地】



ビーズの流動を抑えたことで**高い帯電防止性能**を実現。**ビーズの劣化（縮小）を大幅に軽減**しました。

【小粒子ビーズ（0.7～1.0mm）】



粒子が細かいため、滑らかに体の凹凸に沿い、長時間にわたって体位を保持することが出来ます。

【大粒子ビーズ（4.0～5.0mm）】



起伏の激しい凹凸が出来るため、通気性を保ち、蒸れにくく、褥瘡防止に最適です。

【外袋の素材】

外袋は抗菌配合されたTPU（ポリウレタン／エーテル系）シートを採用。溶着強度・ピンホール強度・耐薬品性・防水性に優れています。また素材自体が柔らかいため、褥瘡になりづらいです。

【チューブのジョイント位置】

陰圧（脱気）口をサイドに取り付けたため、装着時の邪魔になりません。



使用感の向上のため、**素材・構造からチューブの位置**まで幅広く改良。

❖ 全身用マット L185（放射線治療用）使用方法

①：ビーズの偏りがないため、すぐに使用できます。

②：マット内を陰圧することで、体の凹凸に沿った形状に固めます。

③：3か月の間、形状を保持することが可能です。

